

2022 年度 臨時財務審議会議事録

開催日：2023 年 3 月 7 日 19:00~21:30

開催方法：zoom にて開催

参加者：木澤清行 檀辻雅広 岩田健太郎 間瀬教史 伊藤 弘 堤万佐子

小森昌彦 山口良太 山本克己 有吉智一 正木健一 清原直幸

沖山 努 鮫島一雄 前川健一郎 (欠席；小山 長、成田孝富)

梶家慎吾 (書記)

【議題 1；第 35 回兵庫県理学療法学会大会予算について】

● 概要説明

・ 県学会の予算内訳、会場費、講師への謝礼、機材レンタル料、運営会社へ

の料金など

・ 第 34 回県学会必要料金—運営会社 500 万円、会場費 150 万円、人件費

諸々でおよその総予算 700 万円を予定

収入の見込みは、参加費 3000 円として参加人数 500 名と想定して 150 万円

- ・本日の決定事項として、各必要経費の金額を決定

●意見

- ・学術大会の予算について、県士会からの持ち出しについて考え直す必要がある。およそ 500 万円という予算の持ち出しは、大きすぎる。

よって、会員数（6000 人）×500 円で 300 万円の持ち出しとすると良いのではないか。

- ・今後、大会長を公募していく中で参加費からの 150 万円という収入が少なくなってきた場合に赤字が出てしまった際の処置をどうするのかの検討が必要

- ・もう少し予算の削減は可能ではないか。

- ・上限を決めるのは、難しいところがあるが 500 万というラインも良いかと思われる。

- ・若い会員の会員離れが進んでくるので、金額の内容については慎重に検討しなければいけない。

- ・3000 円という参加費の継続が問題になってきていると考える。3000 円を継続するのであれば、会場や規模を縮小させていかなければならない。そういったと

ころから参加者負担の増加も視野に入れた動きも必要。

- ・近畿理学療法学会でも各府県から 500 円/人の負担をしているので、この意見については妥当と思われる。

- ・32 回開催時の金額は、500 万円強となっているが、この時は完全 WEB 開催で行ったので、会場費が入っていない。

- ・35 回の公募による大会長については、今回の話が無い上での就任となっているので、今のタイミングで金額のことを言われると酷である。若い会員の金額負担増が問題なのであれば、提示金額で会員が満足できる内容を検討していく。

- ・若い会員が感じる金額の高さについて、その額が問題なのではなく、支出に対するゲインが少ないと感じることが問題だと思うので、多くの単位が取得できるなど、内容を充実すれば受益者負担を増やしてもいいと思う。

- ・運営については、業者の介入は必須だと思う。なので、会場費等についての検討を行っていくことが必要。

- ・埼玉県士会の県学会は、5 年目まで無料で開催している。6 年目からは、2000 円の参加費としている。若い方の負担を減らし、年配の方が少し多めに参加費を負担するという取り組みをしている。

- ・総予算を決めてその中でできる学会の内容を検討していくべきである
- ・予算については、提供すればするほど膨らんでくるので、上限の枠を決めて内容を考えていき、質の担保の確保についてはそれに見合ったものになると思われる。

- ・参加者負担の増額は賛成である。県士会での負担を増やすのではなく参加者の負担の増加として、若年者の負担を減らして年配者の負担を増やすことも妥当と思われる。

- ・運営会社介入当初は、全ての運営を任せていたのでは無く、部分的な介入だったように思う。主に事務局代行がメインの依頼で動いていた。その後、設備の改善によりそれを扱う人件費が増加してきている。

- ・運営会社の予算規模が大きくなるのであれば、運営会社の機能部分を切り分けていくのも金額の削減になると思われる。

- ・参加費と士会負担金が総予算と考えるのか、参加費と士会負担金と会場費が総予算と考えるのか。

- ・士会負担金の会員数×500円とう設定は、会員数が増えるのであれば問題ないが、会員数が減っていくということを見越して、それに合わせた規模の設定が行

える。

- ・他県士会の県学会での士会の持ち出しの金額を比較検討する必要もあるのではないか。

●35 回大会の総予算枠を決定する要件

- ・参加費；1年目に対して参加費無料にするなどの権限は大会運営側に委ねる
 - ・士会負担金；会員数×500円
 - ・今後は、公募をする際に会員数×500円の金額を元に予算と規模を決めていく
 - ・無料にした場合に不足した分の金額は、士会が負担していくとするが、大幅な赤字を県士会が補填するという前提では、結果、予算の上限が無いのと同じなので、県士会が補填する赤字の補填範囲については、理事会で検討し決定する。
- 決定するにあたり大会運営側から提示された予算の妥当性を理事会で検討し、修正が必要であればその金額を提示し予算を再検討してもらおう。理事会での検討の結果、承認された予算で赤字が出た場合は、士会で補填する。

●第35回県学会の予算について理事会への提言内容

- ・ 士会負担金；会員数×500 円（約 300 万）

- ・ 参加費：学会運営側で決める